

# 養育里親

## ～もうひとつの家族～

### 9

坂口 伊都

## 家庭に入るまでのステップ

里親制度に限らず、社会的養護の場で育ち、家庭から離れていた子どもが家庭引取りになるまでには、子どもが本当に家庭に戻れるかどうかを児童相談所のワーカーが判断するための材料がいます。親子の関係を重ねる目的も含めて、まず施設で出会う面会、施設の外に出かける外出、短期外泊、長期外泊というステップで親子の関係の構築と家庭引取りについて判断していきます。

施設の面会室等で親と子どもが出会う面会を重ねる事が多いのですが、なかなか上手くいかないという話を耳にします。親が面会に行っても、子どもが固まってしまう、親を見て泣き出し施設職員から離れない、親がおもちゃやおや

つで子どもの気を引こうとする、親と出会った後子どもが荒れる等です。子どもにとっても面会室は、日常的に行く部屋ではなく、遊び道具もない殺風景な部屋だと余計に不安を覚えます。親の方も施設に出向くのは敷居が高く感じ、子どもは親である自分よりも友達や施設職員という方がいいのではないかと恐れ、だんだんと面会に行く足が遠のきます。面会の約束をしていてもその日に突然キャンセルしたり、現れなかったりする親がいるのも事実です。親を待ち、来なかった時の子どもの落胆を知り、親に出会った後の荒れた姿を見る施設職員の中には、子どもを傷つけるぐらいなら親と交流しない方がいいと感じる人もいるといます。

親子が共に安心して会うためにどのような配慮があるのかを考える必要があると感じています。現在、養育しているのは施設職員で、施設

が子どもにとって安心できる場所であり、信頼できる施設職員と親子でまず出会っていく手順を取る事が子どもにとって安心できる場面になるのではないかと思います。そして施設職員が、親に今の子どもの状況や好きな遊び等を伝え、親が子どもの事を尋ねられる関係になっていけば、親の意識が面会に向かう原動力になっていくと感じます。親子の時間をお互いにとって心地よい時間にしていく工夫が求められているのではないのでしょうか。

里親の場合も、家庭に迎え入れるまでに丁寧な子どもとの関係を築く関わりがいるのだと改めて感じます。今回は、何故そのように感じているのかを書いていきます。

## 家に行く

他のケースがどのようにしているかはわかりませんが、我が家の場合は自宅にこの子を招くまで家以外の外出を2回し、3回目の外出で初めて自宅に行きました。

初めの頃の自宅に行かない外出では、時間を使うのに苦勞をしました。天気や気候にも左右されますし、あまり施設から離れないような場所となると限られてきます。商業施設に行けば刺激が多く、誘惑が押し寄せてきます。「あれ買って、これ欲しい」とせがむこの子に対して、どこまで応じてあげればいいのか判断に迷います。買ってあげたい気持ち半分と買ってあげることでつながっていく関係は好ましくないだろうと思う気持ち半分です。この子にとって買ってもらえることは嬉しいことですし、児童養護施設ではおもちゃ等を買ってもらえる日は限られています。子どもが大好きなゲームでも、保護者等から贈られなければ、自分の小遣いを貯めてゲーム機を買うと聞きました。大きなおもちゃを手にとってるので、「誕生日になら買っ

てあげられるよ」と声をかけると、その子はおもちゃの値段を見て、少しでも高い方を買って欲しいと言います。そして、何につけても「高級なのがいい」と言って、高い物を買ってもらう事で満足しようとしています。あまりにも高級なものをと連発するので、パジャマを買う時に「いくらくらいのが、高級なの？」と尋ねると、「うーん、3,000円ぐらいするの」と答えたので、思わず笑ってしまいました。児童養護施設では、誕生日のプレゼントも日用品も上限が決められていて、決して高い金額設定にはなっていません。だから、こんな風に値段を気にして言うのかなと感じました。

また、この子は買ってもらえなくても駄々をこねません。すぐに気持ちを切り替えます。店におもちゃを買ってもらえなくて、床にはりついて泣いている子を横目でじっと見ていました。「買ってもらえなくて泣いているねえ。あなたもしてみる？」と聞くと、ううんと恥ずかしそうに顔を横に振っていました。この先、どう変わるかはわかりませんが、何かを買ってもらう、自分の物が増えるという経験をしながら、物とどう付き合っていくのかを感じていくのでしょうか。息子も娘も、何かのおまけのような、どうでもいいおもちゃを欲しがりました。欲しいのはその時だけで、家でしばし遊ぶと床に転がっている。ガラクタが溜まると場所を取って片付かない。捨ててもいいかと尋ねれば、必ずダメと言われるので、忘れた頃にそっと処分するなんてことをしていました。一見、無駄だと思われることの積み重ねの先に物との付き合い方を学ぶのかも知れません。程度はありますが、その時の子どもの欲求を受けることで、「してもらえた」という体験が子どもの中に残っていくのだろうと感じています。

3回目の外出で自宅に行けるとなった時は、ホッとしました。気疲れの度合いが、全く違います。自宅で過ごせるようになって、自宅での

んびりするにはならず、ちょくちょくと出かけています。それはやはり、外出や外泊が子どもにとっても大人にとっても特別な日で、気持ちが落ち着かない日になっている事実があるからでしょう。家で過ごす日常生活に慣れていなくてはと思うのですが、子どものウキウキ気分が伝わってくるのと、こちらもせっかくだしどこかに連れて行きたいなあと思う気持ちが勝ってしまいます。1泊の外泊でも同じように、今日は急いで施設に戻らなくてもいいから、どこかに出かけようかとなりました。外出では行けない所にも足を延ばして行けるので、バタバタと忙しく時間を過ごしてしまう事が多く、一緒にいる時間を楽しくいい関係で過ごせていましたが、これでいいのだろうかとも感じていました。この頃は、外出や外泊が、この子にとっても私達家族にとってもイベントとして過ごす時期だったのだと思います。このイベント期は、ある一定期間続き、一区切りしてから次のステップに気持ちが移っていきました。

この子も私達家族も落ち着いて家で過ごす時間が増えたのは、金曜から日曜の2泊3日の外泊からです。2泊になると決まった時、長く共に過ごす時間ができると思うと、理由もなくザワザワと不安にかられました。それまではいつも、私以外の家族が誰かいたのですが、高齢者施設職員の夫は勤務、息子と娘はそれぞれ部活動と重なり、私一人で大丈夫かなあと心細くなります。今思えば、2泊を過ごすイメージが出来ずにいて、不安を漠然と感じていたのでしょう。交流をしている子の口癖は、「ひま〜」だったので、その言葉に引っ張られるように何かしなければとしていた向きも否めません。

2泊になると、当然ですが初日は家で過ごし、2日目か3日目に何処かに出かけたとしても、家で過ごす時間は確保されます。宿題もしなければなりません。掃除や洗濯の時間も一緒にいます。家族のリズムの中にその子を招けた感じ

がしました。イベントとしての外出・外泊から日常生活へ移行したと言っていいのでしょうか。

子どもも家に慣れる、家族に慣れる、一緒に過ごす時間に慣れることで、一人でトイレや2階に行けるようになっていきました。それまでは、盛んに「一緒にきて」と言っていたのですが、気がつけばいなくなっていることが増えました。見知らぬ家から、見慣れた家が変わってきたようです。それからは、何日間の長期外泊でも不安を抱くことはなくなりました。だんだんとお互いの距離感を縮めてきているようです。日常生活を共にするためには、お互いのリズムを揃える波長合わせの期間があるのだと思います。結婚する時もそうですが、お互いに違う日常を過ごしているのですから、生活を共にする中で衝突することも出てきます。大人と子どもでは、大人の方が強いのですから、子ども側が必死になって合わせる事態が起こりうることを忘れてはならないと思います。

## 夜

夜は、子どもにとって不安が活性される時間です。寂しくなったり、怖くなったりする時間だからこそ、安心できる大人がそばに寄り添っていたいと考えています。よく子どもがよその家に泊まりに来て、昼間は元気で過ごせられるのに寝る時間になると自分の家が恋しくなって、帰りたいよおと泣き出すことがあります。泣き出さないまでも、子どもなりに辛抱して自分自身をなだめている姿を見うけます。

この子との交流が始まって、初外泊の晩は特に印象に残っています。少しでも夜の怖さが和らげばと思い、夫、この子、私と川の字になって寝ることにしました。するとこの子が、「一緒に寝るの？朝までいるの？」と聞いてきます。「一人で寝たい？」と聞くと、「いやー」と答え

たので、「一緒に寝ようね」と言うところまではほのぼのとしていたのですが、川の字ではなく、Hの字型になってみたり、反対向きになってみたり、私達の上に乗ってみたり、目覚まし時計を鳴らしてみたりと落ち着きません。落ち着かせようと思って、背中をトントンとすると嫌がられてしまいました。娘なんかは、背中をトントンして寝かしてもらうことが好きで、かなり大きくなってからも「ママ、トントンして」と甘えていたのですが、その子にとっては理由がわからない行動だったようです。

添い寝をして、背中をトントンしたり、手を握ったりできないとなると、どう落ち着かせようかと悩みました。これは、長丁場になるなど覚悟を決め、電気を豆球にしたり、消灯したり、寝たふりしたりしながら落ち着かせていきました。その内、寝息が聞こえてきたので、やっと寝たなあとホッとしていると、目がパチリと開きます。暗闇の中で目があい、微笑みかけると何とも言えず嬉しそうな顔で笑っていました。忘れられない笑顔です。朝までに何回も目が開いて、目が合いました。まるで、本当のことなのかどうか確かめているかのように、何度も何度も確認しているのかも知れません。

夜中に何回も起きていたので、私は寝たのかどうかよくわからない、身体が重い朝を迎えたのですが、この子はとても早起きで、元気いっぱいです。猛烈な興奮状態なのだろうと感じ、次の日の学校がしんどくなるのではないかと心配しましたが、その時はいつも通りに学校に行ったそうです。

外泊を繰り返し、夜中に何回も起きることは減りましたが、寝る体制がなかなか整いません。夜になると、興奮するようです。寝るのがもったいないと感じているかのように見えます。朝も早起きをすると張り切っています。休日なのだから、ゆっくり寝てもいいよと思うのですけどね。

私達家族もこの子も当たり前のことが当たり前ではない体験をしているのだと思います。寝かしつけ一つでも、自分がしてきた添い寝をして背中をトントンしたり、手をつないだりしないと私の方が落ち着かない気分になってきます。以前は、頭をなでられても逃げていましたが、時間が経って頭をなでられるようになりました。変な言い回しですが、頭をなでられるのが上手になったなあと感じます。我が家での心地よさとこの子が培ってきた心地よさに齟齬があるのでしょうか。とても小さなことでも、前提が違うのだと教えられています。

## 寂しさ

外出でも外泊でも、迎えに行く時間があれば、同じように送りに行く時間があります。長期外泊になればなるほど、日常生活を共にしている感覚があり、何とも言えない寂しさと落ち着かなさを感じるので、送りに行く時間はあまり好きではありません。

この子も迎えに行った時は、車の中でいろいろなことをしゃべり、饒舌だなあと感じますが、送りに行く車の中では、口数が少なくなります。それが、寂しさなのかどうなのかはわかりませんが、よくわかる違いです。この子が意識しているとは思えませんので、正直な反応なのでしょう。少しは寂しさを感じているのかなと思い、もうじき車に乗って送る時間が近づいた時に私が、「何か寂しいなあ」と同意を求めるように話しかけたのですが、「えっ、寂しいって？別に寂しくないよ」と言われました。笑って「そうか」と答えましたが、正直ショックでした。5日間を我が家で過ごした日だったので、余計にそう感じたのです。施設に戻ることも楽しみでいられることも大切だなと思いつつも、寂しいって何？と聞こうとしたのかも知れないので、もし

かしたら寂しいという感情を意識したことがないのかも知れないとも感じました。自分の中の感情を知るにも、誰かと一緒に体験し、語り合うことが必要なのでしょう。

この子は、初めての外泊でも長期外泊でも、施設に帰りたがったことはありません。夜になっても、泣きそうにもならず興奮して楽しそうに過ごしています。この子は、我が家にいる時に施設の話をおもしろくありませんし、会わなかった間に何をしたともありません。我が家のことは、職員さんが「どうだった？何したの？」と話題にしてくれるので、いろいろと話しているそうです。それも最初の内は、〇〇を買ってもらったという話を中心でしたが、時間が経つとともに、こんなことをしたという話題が増えていると伺いました。

ある時、送る車の中で「パパとママを思い出したりすることあるの？」と聞くと、「ゼーンゼン」と憎らしい口調で返したことがありました。あまりにも不自然な返事だったので照れ隠しで、逆に思い出している時もあるのかなと思ったほどです。この時、「ママはあなたのことを思い出しているよ。早く会いたいなと思ったりしているよ」と伝えました。素直に感情を言葉にして伝えていくことの経験がいるのでしょうか。嫌いな物や嫌な事は、「いや」や「えー」「したくない」「めんどくさい」等の表現ですらすらと言えるのですが、「楽しい」や「嬉しい」「美味しい」等のポジティブな表現が少ないように感じます。食べる物も嫌いな物は言えますが、好きな物は「肉」と言っていました。肉は、メニューではなく分類です。いつの日か、あれ食べたいなあとメニューを言う日を楽しみに待つことにしました。共に時間を過ごし、楽しかったことや悲しかったことを共有し、言葉でのやり取りをこの子が耳にするだけでも、意味があるような気がしています。

この子にとって、私達家族はどのような存在

なのでしょう。今度来る日を確認し、また遊びに行けると思ってくれていることは、伝わっています。我が家を少しは自分の居場所と感じてくれているのでしょうか。わからないことだらけです。

この子がどのように私達を感じてくれているかはわかりませんが、家族となっていくために夫婦で話し合っただけ決めたことがあります。それは、この子の呼び方です。施設では、〇〇ちゃんや〇〇くんと呼ばれていたのですが、私達もそれに従って呼んでいました。しかし、息子も娘も名前を呼び捨てで呼んでいます。ふざけて、「ちゃん」や「くん」をつけることはありますが、基本は呼び捨てです。その中で、この子だけが呼び捨てでないことに違和感を覚えました。いつまでも、一定程度の距離感が縮まらないような気がして、家族なのだからこの子も呼び捨てで呼ぼうと決めました。呼び方を変えても、この子はそれを指摘することもなく受け入れています。

不思議なもので、呼び捨てにすると今までよりも距離感が縮まったように感じ、この子のお母さんらしくなってきたような気がしています。小さな変化で、随分と変わるものだと驚いています。まだまだ、家族としては未完成品ですが、この状況を素直に受け止めれば良いと感じています。中途養育が、そんなに簡単なはずがありません。ましてや、違う生活を送っていた者同士なのですから、戸惑いや発見があっても当然です。一緒にどんなリズムを作り出せていけるかの方が大事なのでしょう。子どもは、大人の予想以上に大人の顔色を見て、観察して、振る舞っています。きっと、本人も何が何だかわからずに今を生きているのではないかと思います。子どもがどのように感じているのかわからなくて不安に陥りますが、わからなくて当たり前、これからじんわりとお互いを感じていくのだろうと、自分に言い聞かせています。

## 最後に

子育ては、どんな子であってもわからないことだらけです。我が子だから、全てがわかるなんてことはあり得ません。それを途中からやろうとしているのですから、なおさら難しいわけです。全く違う家族のルールの中に身を置くのですから、本当に難しいのは私達よりもこの子の方でしょう。私達家族は、自分達の暗黙のルールを日常生活の中から作ってきました。影響力の強さで言えば、こちら側が優勢です。子どもが家族に合わせればそれでいいということではなく、小さな体で、余裕もなく新しい生活を覚えようとしている現実を知ろうとすることが大切です。大人側は、今の状況の成り行きをわかっていますが、子ども側は何も知らされていないことも多いです。自分自身に何が起ころうとしているのかもわからず、違う日常生活に身を置かなければなりません。苦勞しているのは、子どもの方のほうです。それを大人側は意識しようと努力すべきなのだと強く思います。

大人側も子どもが何を考えているのかわからずに不安に陥ることもあります。もともと子どもは、多様な表現方法を持っていませんし、表現の仕方も上手くできないことも多いです。大人として、冷静に構え、温かい眼差しを忘れずに子どもを見守る姿勢が求められるのではないかと思います。本当にお互いの関係が積み重なっているのか、何を持って確信すればいいのかわかりません。だからこそ、第三者の立場で関係を一緒に見守ってくれる人が必要なのです。我が家の場合、施設職員が言ってくれる施設でのこの子の様子、こんなことを話していましたよと伝えてくれることが支えになっています。そんな会話をしてくれているのだと思うだけで、心がホッとします。この子を中心に養育者同志

がつながり、中途養育の難しさを前提とし、子どもの戸惑いがどこにあるのかを話し合うことが重要だと体験しています。この子を養育している職員と親、里親が連絡を密にしていくことで、わかりにくい子どもの内面を感じ取る手がかりになると思っています。